

平成27年度 上越市特別活動部 活動報告

部長 長谷川 敬子

1 研究主題

よりよい人間関係を築く特別活動

2 研究の概要

上越市では、小中学校の県費負担教職員で上越市学校教育研究会を組織している。本部会は、その中の部会の一つである。今年度は昨年度に引き続き、望ましい集団活動の土台となる「よりよい人間関係」について焦点をあて、会員個々の実践を積み重ねと秋の一斉研修を実施した。一斉研修では、学級会の授業参観、講話、情報交換を行い、学級づくりにおける教師の在り方について研修を深めた。

3 研究の実際

＜秋の研修会の概要＞

- ・期日 平成27年11月11日（水）
- ・内容 学級会の授業参観 講演会 情報交換
- ・授業公開 上越市立高志小学校2年2組

「クラスイベントで仲良くなろう」

授業者 岩島 亜紀子教諭



- ・小中混成グループ協議（本授業について、自分の実践について情報交換）
- ・講演 講師 高崎経済大学非常勤講師 橋本 定男 様 「学級づくりへの提言」

◆授業の概要

「第9回にこにこしあわせ会議」は、円形で行われ、11月の誕生会に行う遊びを決めるという内容であった。「食べ物ビンゴ」「たからさがし」「でん言ゲーム」の3つの案が出され「良い点」「心配な点」を出し合ってから整理し、全員納得の遊びを決定する話し合いであった。子どもたちが仲間の意見にしっかりと耳を傾け、受入れ、折り合いをつけて結論を出した清々しい授業であった。「多数決は嫌だ」「代弁できる」「自分の考えを発表する」という子どものすばらしい姿をたくさん見ることができた。

◆講演の概要 これからの特別活動は社会参加。何かやるという時に選ぶ形でなく、チームで練り上げていく。新しい何かを練り上げることでできる学級が求められる。「選ぶ」→「創る」へ。そのためにも話し合いが本音でできる話す文化や雰囲気のある学級づくりが必要。また議題が生まれるまでのストーリーを大切にし、どの子にとっても必要感のあるものにするのが重要。学級のもつ負の痛い部分に向かえるクラスが本当に温かいクラスである。おかしいと思う子が「おかしい」と言って話し合い、ルールや条件ができ、平和で温かい居心地のいい学級ができていく、

◆グループ協議から（一部紹介）



- ・「話し合って未来を変えられる」この言葉に尽きると思います。
- ・話し合いが学級を変えていく。私のクラスで不足しているものは「話し合い+聴き合い+折り合い」だと痛感しました。
- ・小学校の学活の授業を見たのは初めて。教師の出場、話し合いの進め方、ルール、板書の仕方など他の先生に聞けなかった事を学びました。クラスに戻ってもっともっと話し合いをしたいと思います。

- ・クラスの負の所に突っ込んでいけるクラスが温かいクラスであるという話に感銘を受けました。

4 成果と課題

授業(学級会)を参観し、それを講師から意味付けてもらったことが、自学級でもぜひ話し合いを行いたいという会員の意欲に結びついた。来年度は高学年の授業も見たいという声があがっている。学級会の議題設定から話し合いのルール、教師の出場など学級づくりについて来年度も学び合いたい。